

第5回守山駅東口再整備基本計画策定委員会 摘録

日時：令和6年8月9日（金）午前10時00分から午前11時45分まで

場所：市役所2階 防災会議室

開会

10：00

市長あいさつ

第5回守山駅東口再整備基本計画策定委員会の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

これまでから、本委員会の議論は、ホームページでの公開や議会での説明を行っていましたが、市民の皆様への更なる周知に向けて、8月15日の広報から、毎月15日の広報で特集記事を組むことになりました。

本日の委員会では、これまでの委員会で整理した5つの導入機能を限られたエリアの中でどのようにゾーニングするのか、歩行者・自転車・自動車のアクセス動線をどのように整理するのかについて、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと考えております。

10：05

委員およびオブザーバーの紹介

変更があった委員1名の紹介、オンライン参加2名・代理出席2名・欠席1名

10：10

報告事項 守山駅東口再整備基本計画策定委員会について

【主な意見】

※特段の意見なし

10：15

協議事項 土地利用ゾーニング・アクセス動線について

【主な意見】

・個人的には、全てのゾーニング案で渋滞が発生してしまうと考える。

駅へのアクセス性を考慮した場合、既存の4車線道路を削り、車線数を減らすことや一方通行道路を廃止し、歩道として活用することは、マイナスに作用すると考える。

駅利用者がスムーズに駅を利用するためには、平時の利用者数だけでなく、混雑時の利用者数を捌くことが出来るキャパシティを備える必要があるのではないか。

⇒ 県道片岡栗東線の4車線化や野洲栗東バイパスの整備により、都賀山通りの渋滞は緩和されることが見込まれる。

既存の4車線道路に関しては、交通量としては4車線を必要とする基準に達していない。

ご意見をいただいたピークに対して余裕を見るべきという視点も重要ではあるものの、駅利用者の利便性を阻害しない範囲で、東口を憩える空間や賑わいのある空間に転換していきたい。

・自動車のアクセス動線については、ロータリーだけでなく、周辺の道路状況も含めて、全体で考えていく必要がある。また、ハード整備だけではできることに限界があるため、運用との両面で対応していかなければならない。

・一方通行道路を廃止すると、既存の商業施設のごみの回収等が出来なくなるのではないかと。

守山駅は、近隣住民が通勤・通学のために多く利用する駅であり、ロータリーから駅改札までスムーズに移動できるアクセス動線を検討してほしい。

⇒ 一方通行道路については、一般車両は通行禁止の時間帯でも、業務車両は通行可能となるような運用をイメージしている。

今回の東口再整備については、駅を単なる交通結節点と考えるのではなく、駅周辺の活性化という全体の位置付けの中で、賑わいの核となる広場や商業施設を利便性の高い場所に配置するというコンセプトがある。結果的に、ロータリーから駅までが遠くなったように感じるものの、現状の東口も、駅とロータリーの間に駐車場が立地しており、距離的には大きく変化していない。

住民や事業者等、既存の駅利用者の利便性にも配慮しながら検討を進めていきたい。

・地下道について、ゾーニング案の中で既存の出入口の一部が廃止されているが、資料に明記されていない。また、現状のアクセス動線としても、廃止を検討している出入口からの歩行者および自転車の動線が抜けてしまっている。この2点について、資料を修正してほしい。

また、細かい点になるが、ゾーニング案の中でペDESTリアンデッキが複合商業施設より南西側にも伸びる形になっているが、この箇所のペDESTリアンデッキは不要なのではないか。

⇒ ご指摘のあった2つの点については、資料を修正する。

南西方向のペDESTリアンデッキについては、ご指摘の通りであるが、どのエリアにもスムーズな移動が可能だということを示すためにも、ゾーニングの段階では資料に明示しておきたいと考えている。なお、実際の整備に当たっては、ペDESTリアンデッキ単体では無く、施設の中に含めてしまう形で整備することも考えられる。

・守山駅西口ロータリーは飽和しており、企業輸送バスは東口より運行している状況である。

今後も企業輸送バスは増加する見込みであり、新たな企業輸送バスを誘致するキャパシティを残しておく方が、市全体の今後の発展にも望ましいと考える。

また、守山駅東口ロータリーは、高速道路の栗東インターチェンジにも近く、観光バスの発着場として最適であり、県内の方が観光バスを利用する際は、東口ロータリーを活用することが多い。

・基本計画で示す内容は非常に重要であり、基本計画で定めた内容を覆すには相当の労力が必要となる。今回のゾーニング案では、どのくらいの公共空間を確保するのか、公共交通をどのように分担していくのか、回遊性の向上させるためにアクセス動線をどう整理するのかという点について検討しなければならない。個人的には、事務局と同様、第1案がベストだと考えている。

ただし、駐輪場については、駅から離れた位置に立地しており、自転車の活用を推進するまちとして、恥ずかしくない自転車環境を形成するためにも、もう一度、配置を考え直してほしい。

・昨年度よりイベント輸送のために守山駅東口ロータリーを活用しているが、再整備後はどのように対応する予定なのか。

⇒ 工事着工後は、現在の同じ形での対応は厳しくなることが想定されるため、イベントの実行委員会とも情報共有を図っていきたい。

・企業誘致エリアの面積（5,000㎡程度）については、前回までの委員会で議論済みの内容なのか。

⇒ 前回までの委員会では議論していない。

資料にも記載している通り、市内において、地区計画の手法を活用し、企業誘致を進める際に

設定している最低基準面積が 5,000 m²程度となっており、その数値を参酌する形で企業誘致エリアの面積設定を行っている。 ・駐車場の入口がロータリーに面していることは、交通量を増やす要因となる。 線路沿いに迂回路を設ける等して、ロータリーでは無い箇所に入口を設けてほしい。 ⇒ 駐車場の出入り口については、事務局としても悩んでいる点であるが、他の機能の配置バランスを考慮すると、現時点では、ロータリー内に出入口を設ける形がベターだと考えている。 ・一方通行道路のあり方や企業誘致エリアの公募条件、ペDESTリアンデッキの整備長、ロータリーの面積など、継続して検討していくべき内容はあるものの、ベースとなるゾーニング案を委員会として固めていく必要がある。 ・事務局から最も優位性が高いとして示されているゾーニング案（1案）をベースとして、今後の検討を進めていっても問題は無い。 ⇒ 継続検討事項については、確実に確認できるタイミングや機会は設けてもらえるのか。 ⇒ 今回の委員会でゾーニングを含めて、全てを確定するものではなく、今後の検討のベースとなる方向性を選択するものである。詳細な内容については、今後議論していきたい。 ⇒ 第1案のゾーニング案を中心として、今後の検討を進めていくこととする。
11：30 その他 整備イメージ ※資料の説明のみ
11：40 報告事項 ・市長あいさつの中でも触れていた通り、8月15日号の広報もりやまを皮切りとして、毎月15日号での定期連載という形で、JR守山駅東口再整備に係る特集記事を掲載します。 ・次回の会議は、令和6年11月頃の開催を予定しています。
閉会